

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370400545		
法人名	医療法人こまくさ会河口医院		
事業所名	グループホームこまくさ		
所在地	玉野市宇野2-19-18		
自己評価作成日	令和5年9月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和5年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ対策中であっても、本人の意向を尊重し、希望をかなえられるように、やりたいこと、できることを生活の中に取り入れ、生き活きと生活できるように工夫している。高齢化になり、認知症ケアだけでなく、身体的なケアの工夫も必要となってきている。スタッフ同士が協力し合い、なんでも話し合えチームワークが良いところを活かし「今ここで」という理念を大切に、毎日悩みながら出来る範囲の中で満足いただけるよう努力している。地域密着型サービスを踏まえた理念のもと、認知症カフェや、キャラバンメイト、認知症月間の展示、元気一番祭りを通して地域における認知症の正しい理解を広げる取り組みは引き続き行っている。ご家族との関係性も保たれることとしてこまくさ新聞やホームページで情報を伝えている。職員との信頼関係が得られるように伝えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者が出来ることに着目し、今までのこだわりを大切に日々支援している様子が見受けられます。ホーム長をはじめ、管理者や職員の仲がよく、本人にあった援助を日常の中で話したり、ミーティングの中で考えています。新聞係があり、毎回手書きでたくさん写真掲載した新聞は、入居者の日常が家族に伝わりやすく安心感に繋がり、関係性を保てるように工夫している様子が窺えます。24時間体制でかかりつけクリニックの協力があがり、何かあればホーム長や管理者にもすぐに相談でき、夜間や休日でも本人や入居者、職員の安心感に繋がっています。食事はホームで入居者と職員と一緒に作っており、今までやってきたことを継続することにも繋がりが、家庭的な雰囲気が見受けられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングで理念の共有し確認をしている。個々の思いに添いながらケアを行い、『今ここで』を大切に取組んでいる。地域密着型としての取り組みはコロナ禍の為、生かせていない。	ミーティングの時に理念を振り返っているが、職員が覚えている箇所を一人ずつ言ってもらっています。「今ここで」を大切に考え、支援のどの部分に当たるのかを職員と話したりしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為、地域との交流は難しいが散歩時に近所の方へ挨拶をしたりゴミ拾いをしたりしながら歩くようにしている。	地域の方が季節の果物や花を持ってきてくれたり、声をかけてくれる様子が窺えます。地域の清掃活動に参加したり、今後も感染症の状況をみながら地域との交流を検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ、元氣一番祭りの活動を行い、認知症について相談できる場を設けている。今年度は、キャラバンメイトが参加し認知症月間の展示などにも参加している。認知症カフェの個別相談では、実践的支援の方法も紹介することがある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ緩和となり、ご家族や地域の民生委員さんにも参加してもらえるようになり、また以前のような意見交換をしていきたいと思っている。日々の生活の様子、ヒヤリハットや事故報告をして、意見を聞き、活かせるものは活かしサービス向上していきたい	行政の方に参加していただけるように休日を選べるようにしています。多くの家族にも参加してもらえるように、クリスマス会等のイベントの後に研修や会議を開催している様子も窺えます。運営推進会議の中で意見交換の時間を設けてサービスの向上に活かせるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者との連絡はホーム長や管理者が行っている。認知症カフェやキャラバンメイトなどで連携をとり、協力している。改正等不明なことがあれば行政にTEL、メールなどで相談を仰ぐこともある	実施していることについてや、運営の中での加算、制度について不明なことがあれば市町村担当者に聞くようにしています。困難事例に関しては施設内で話をするようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠していないが夜間は防犯の為、施錠している。半年に1度の内部研修、2ヶ月に1度身体拘束委員会を行っている。また、研修、勉強会やミーティングなどの話し合い、発言できる場がある。日々の業務の中でも身体拘束について話し合い、理解を深めている。	日中は施錠していません。職員が入居者の思いや考えていることを感じ取ったりしながら、入居者が束縛感なく過ごせるように努めていることで、身体拘束にならないケアに繋がっています。自分たちがされて嫌なことは入居者にもしないように考えて支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で学ぶ機会を設け、ミーティングや日々の業務の中で不適切なケアを行っていないか話す機会を作っている。虐待に繋がらないようスタッフ間で声をかけあい、必要に応じて介助を交代している。自己評価で振り返るようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会などで学ぶ機会はあるが、なかなか活用できていない。個々の認知症の状態に応じて必要と思われる時に相談している。市民後見人育成のために、今年度は実習の受け入れを行う予定		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書をもとに一つ一つ説明し理解や納得をしてもらっている。改定時には紙面、電話、集合型、個別対応をして説明を行う。わからないことがある場合はいつでも質問できるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置していることや、面会、手紙や電話、病院受診時などに御家族と話し、意見を聞かせてもらい、信頼関係を築けるよう心掛けている。ミーティングなどで共有、話し合い運営に反映させている。推進会議には行政に参加してもらい家族の生の意見をきいてもらうようにしている	ホームの新聞を家族に送る際に用紙を一緒に入れて、家族からの意見を聞けるように工夫して反映に努めています。日々の支援の中で本当に入居者の思いに沿っているかを考えている様子が窺えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談もあるが、日々の業務の中やミーティングなどに意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。できないことも期限や理由を伝えて説明している。	ホーム長や管理者は日常の中で意見や提案を聞くことが多く、話やすい関係が出来ている様子が窺えます。内容によってミーティングで話すようにしています。対応が難しい時でも、期間を設けて実施してみることもあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職位ごとの段位を定め、ホーム長や事務課長と本部長に状況を伝える。個人の希望に合わせた勤務体制や、資格、経験や能力に合わせた給与体制で各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は離れているので、ホーム長が代わりにしている。管理者とも相談しながら外部研修を受け入れられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修、キャラバンメイト連絡会や市の多職種連携等の研修でのネットワーク作りをしながら、質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には自宅へ訪問し情報収集を行い、今までの生活に近い環境を整えられるようにしたり、本人にゆっくり寄り添い話を聞く時間を多く持ち、情報はスタッフ間で共有し、何を優先すべきか相談しながら、安心できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望については、時間をかけて話を聞き、誠実に向き合えるよう努めている。その思いをプランにのせている。スタッフで共有し、理解し意見を出し合い考えながら、関係づくりにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	できるだけ自宅での生活スタイルを維持できるようにすることや本人の思いを大切にしているが、急ぎのことか、まだ余裕がありこの先に対する不安なのかを傾聴し、緊急性が高い場合や、他サービスで代替え出来る時には紹介することもある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として色々なことを学ばせてもらい、共に生活をする仲間として、できる事・できにくい事を把握しスタッフ間で情報共有する。助けてもらったり、教えてもらいながらコミュニケーションをとる。個人の能力を発揮できる場面をつくり、スタッフと一緒に行動。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	看取り期、通院などの時は一緒に利用者を支えていく仲間として絆を大切に出来る様日常での関係づくりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対策で家族だけしか面会が出来ないが、電話やメール、手紙などで支援している。状況に応じ月2回面会を行っている。	事前に予約してもらい、月に2回家族だけ面会をしています。コロナの為入居以前の人間関係は、家族との関係継続が主になっています。今後は面会回数や居間、居室に家族が入れるように検討しています。	コロナも5類に下がり、以前近い面会の実現と、馴染みの人や場所の関係が途切れない支援の継続に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	発言、活動が少なくなってきたり、笑い声や笑顔を皆に伝え共有し共に生きる仲間として認め合えるよう、トラブルになる前には、スタッフが間にはいれるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	OBへの機関誌の送付、認証カフェのボランティア参加、メールや電話でのやり取りをして関係の維持に努めている。ラインや会いに来て下さったりと、とても気にかけて下さっている。また、ご家族同士のつながりも強いものがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の意向を聞いたり表情や仕草から本人の意向を汲み取り、把握に努めている。今までの生活でのこだわりを大切にしている。	身体の傾きや入居者の動き等細かい部分での変化からも日常的に思いを汲み取り、敏感に感じ取るように努めています。農家だった入居者と野菜を作ったり、今までの生活を踏まえた支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時の情報、他のサービスからの情報提供、実際に自宅に伺った時にその方のやり方や、こだわりを大切に、把握し継続できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関りから、今何が出来て、何がやりにくくなったか話し合ったり、記録やコミュニケーション、バイタル測定などで把握している。作業療法士とも連携している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで話し合ったり本人からの意向、家族からのプランに関するアンケートを介護計画に反映させている。入院・退院時や看取りの時にはプランを見直し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は3か月に1回見直しています。家族とは現状会える機会が少ないので、文書で意向を伺うようにして、本人には日常の中で思いを聞くようにしています。入居者の状態に応じてその都度本人にあった介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や反応、好みなど、色を変えたり、欄を作って、個別記録や申し送りに記入している。時には動画を撮ったりしながら、ミーティング時にも話し合い、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で全てのニーズに対しての対応はできていないが、月2回の面会や動画・写真を送って家族と共有をしている。看護師や作業療法士など多職種と連携している。できなくてもなるべく早く対応するように声を掛け合っている。白寿の祝いを家族の代わりに衣裳や写真などを事前に家族と相談しながら一緒に用意しお祝いをした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ5類になるも、感染リスク等を考慮すると難しいが、生協の共同購入やパン等の移動販売なども資源として捉えている。GHも地域資源の1つとして住み慣れた地で暮らし続けるために役割を果たすことを意識している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療開始に伴い説明を個々に行い、希望や不安等ないか話し合いを設けた。専門医(歯科・皮膚科など)受診継続している。	365日24時間体制で協力してくれる医療機関があります。歯科等行きつけや本人の様子にあわせた専門医があれば、職員が受診支援に行ったりしている様子が窺えます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師とは、24時間体制で電話、相談できる。医療連携の看護師が週に一度きている。ホーム長が看護師である為、日常的に支援できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、入院中の情報交換、早期退院に向け受けいられるよう調整している。退院時カンファレンス(家族、医師、看護師、SW含む)TEL、faxでのやりとりにて連携をとっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に看取りに関する説明を行い、グループホームでの、看取りの方針を理解してもらう。その上で、大きな疾病や看取り時には医師、家族、グループホームで話し合い方針の共有を行う。定期的にアンケートもやっている	看取りの時には短時間でも居間に行ったり、孤独にならないように考えて支援するようにしています。ケアは統一して取り組むために職員全員で決めることを大事にしています。安心して納得したケアは全員が情報共有し、本人にあった方法を探るように努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に一度、救急救命の講習を受けて、実践力を身につけているが、全スタッフが実践力を身に付けているかは不明。キャリア形成で高齢者の疾病等の学びの場がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回様々な災害を想定した訓練を行っているが、実際にできるかは不安。地域との協力体制はコロナもあり、あまり築けていない。BCPの策定にて方法は整備されているものの、スタッフ全員が理解した上で行動できるかは不明。地域の方に分かりやすく入居者状況を玄関に記している。	水害を想定して、1階の入居者全員3階に移動して実際に寝てみたり、エレベーターが使えないことを想定したり、地震があったときの道路の状況を踏まえた避難ルートを検討しています。災害時の備蓄や物品も日頃から準備して保管しています。	今後も実際に災害が起こった時の不安が軽減するように、様々な災害を想定した訓練を継続することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を人生の先輩として尊敬し、失敗しても責めず、成功すればともに喜ぶ。一人一人に合った声掛け、介助をし、プライバシーを守れるよう工夫している。	入居者に声掛けして実際にやってもらうことで出来ることを発見しながら、人格の尊重やプライバシーの保護に努めています。今までの生活の継続を目指し、本人にあった支援をするように配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	答えやすい質問や二択で選ぶなど問いかけの工夫をし、自己決定が出来るように食べ物、飲み物の好みを聞いたり、グループワークの中でゆっくり返答を待つ環境を作ったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分で意向を言える方は、それに沿って、言えない方は表情や様子を見ながらと、一人一人に合わせた支援を行ってはいるが、スタッフの都合を優先している場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選びや、整髪、こだわりの化粧品等、服の着方、イベント時の着付けや化粧、美容師にカットしてもらうときは、写真をカット前に見せたり、本人から伝えたりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に合わせて、調理や準備片づけをお願いしている。出来にくい方も味見や、監督してもらい全員にかかわってもらう様工夫している。メニューを一緒に考えたり、弁当箱や、パイキング、行事や季節ごとの料理も大切にしている。	入居者のやる気が出るような声掛けなどを工夫しています。食事は手作りしており、準備から片付けまで出来ることをお願いしています。ホームで採れた野菜が食卓に上がることで、「おいしい物を、楽しく食べる」食の支援が窺えます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は、起床時や就寝前、日中も大麦若葉、お茶寒天や好みの飲み物など工夫し、エンシュアや高カロリー、プロテインなど一人一人に合わせ支援している。水分量をチェック記入している。ミキサー食や、刻み、とろみなど形態にも気をつけ工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行う人もいるが、全員ではない。起床時と就寝前は必ず行っている。訪問歯科を利用し、助言を貰ってケアに活かしている人もいる。その人に合わせた道具を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて排泄リズムをつかむ様にしている。紙パンツや布パンツを状況によって使い分けたりその都度考えている。服薬変更時は、新たなリズムを仕事や表情からも読み取り、共有し出来るだけ自立して出来る様に努めている。	本人の能力や排泄リズムに合わせて支援を促し、介護用品も状況に合わせて使用しています。家族の金銭的負担の軽減にも配慮が窺えます。入居前は紙パンツを使用していたが、今では布パンツになった入居者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の飲み物、温度、量、必要に応じ、寒天の摂取等一人一人に合わせている。排泄リズムに合わせたトイレ誘導、マッサージも有効。階段、廊下、エルゴライザー等の運動を一人一人に提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望で時間を変えている。また湯船に入りたい方には、二人介助や、体力に合わせた介助方法を工夫して希望に沿っている。夜間入浴や毎日入浴もできるだけ行っている。	入浴は1対1になるチャンスなので、全身観察と、最近の困りごとや現状を聞くようにしています。1人介助では難しときには職員が協力して援助しています。羞恥心の観点から異性介助は行わないように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要に応じてホットミルクやおやつを提供したり、夜間の睡眠状況を見て、午睡を勧めたりソファで休んでもらったりしている。昼夜逆転しないよう、ホットパック、足のマッサージ、日光浴も心がけている。眠れないときは事務所で一緒に過ごすこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての勉強会を行っている。薬の変更時には申し送りを行い、症状の確認しながら症状があれば医師に報告している。副作用までは理解できていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やドライブ、季節の行事や、日常の会話の中で得た〇〇したいと言った希望は出来るだけ実現できるようにしている。炊事、洗濯、クラフト、畑仕事など、能力や希望を理解して上で、役割をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ5類になったが感染リスク高く、できていないが、ドライブ(車内のみ)や散歩など、できるだけ希望に添えるようにしている。	旅行を希望されるがコロナで実現が難しいため、ドライブや散歩で気分転換を図っています。夏祭りではそれぞれの階を歩き来することで、リフレッシュ出来るように協力している様子が窺えました。外出だけでなく、庭でランチをしたりして気分転換を図る工夫が見受けられました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が自分では難しくなって持てない。物盗られ妄想にもつながることがあるので、約束事を決めているものの守れているかは不明。通信販売や立て替え払いにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、書簡の利用、家族からのTEL、家族へのTEL、話しやすいよう自室でスタッフが入らず話してもらう、毎日、ご主人からの電話がかかり取り次いだり工夫している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下に季節のクラフトを飾ったり、玄関に生活の写真を貼っている。自分で育てた庭の花を活けてもらったりしている。定期的に花を購入している。心地よく過ごせるよう、カーテンの工夫、空調に気を配ったり、席や机の配置等その都度工夫している	居間にある複数のソファは、入居者の座位状況によって選定したり、本人が選んで座れるようにしています。日中を過ごす居間や浴室、トイレは入居者が不安にならない様配慮や工夫が見られます。職員の雰囲気明るく穏やかな様子が見受けられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを数か所に設置し、気の合う人とゆっくり座れたり、一人になれる空間がある。談話室など、静かな場所でも座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家での生活に近くなるよう、家で使っていた家具などの持ち込み・設置や、家族の写真、手紙などをおいている。作業療法士に相談し、居室内を安心して動けるよう配置などにも気を配っている	家で慣れ親しんだ物を持ち込み居心地の良い居室づくりがされており、中には入居者の自作した物や手紙を飾ったりしています。入居者の心身の状況に応じて寝具を選定することもあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	希望者には表札を本人の目線に合わせて居室の見えるところに貼っている。表示は分かりやすい馴染みやすいものを使っている。手すりの設置や、老人車、杖など本人に合わせたものを使用している。利用者の残存機能を活かした支援・介助を行うことで、安全にできる事をしてもらっている。		